

# 2024年度 事業報告

## はじめに

日本経済は、深刻な人手不足・物価高騰が企業の収益を圧迫しており、特に中小企業では、利益なき賃上げや価格転嫁の難しさが浮き彫りになってきている。このため、デジタル化の推進や生産性向上への取組に加え、他機関との差別化や価格戦略といった中長期的な視野に基づいた経営計画により収益力の向上を図っていくことが重要となってきた。

このような中、当協会では2024年4月より新健診基幹システム「ヘルゼアネクスト」が稼働した。更なる業務効率化を目指し、2025年度も引き続き運用面での改善を図っていく。また、これまで冬季限定で実施していた「郵送方式」による大腸がん検診については、受診者の利便性及び受診率の向上を目的に、実施期間の制限を無くすための調査研究を行い、2025年度より通年での実施を可能とした。さらに、2024年9月に当協会ホームページの全面リニューアルを行い、ページ構成の見直しなどにより目的の情報に到達しやすいサイトへ改善した。

経営面においては、少子高齢化の影響による受診者数の減、地方自治体を中心とした入札制度における価格競争や新規参入の激化、新健診基幹システムにかかる高額な減価償却費等の要因により、当期経常増減額では2019年度以来の赤字を計上することとなった。また、中長期的には施設の大規模修繕や定年退職者の増、さらには労働安全衛生法に基づく職域健診では胸部X線検査や心電図検査の見直しが検討されているなど、当協会を取り巻く環境は非常に厳しく不透明な状況となっている。

こうした環境の変化に柔軟に対応するため、当協会としては、事業の効率的な運用による生産性向上を目指すため組織体制の見直しを図るとともに、精度・サービスの向上及び経費の抑制に努め、早期の経営基盤の安定を目指していく。そして今後も役職員一丸となって、予防医学事業の進展に努め、県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与するという公益財団法人としての当協会の使命を果たしていく。

# 事業の概要

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的とし、次の1から4の公益目的事業を実施した。

## 1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

### (1) 広報・情報提供事業

#### ①機関誌「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的に機関誌「あすの健康」を4回発行し、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体等を通じ県民に健康情報等を発信した。

#### ②ホームページでの情報提供事業

2024年9月にホームページの全面リニューアルを行い、ページ構成を見直し目的の情報にたどり着きやすいサイトに改善した。引き続き、機関誌「あすの健康」の発刊や当協会内の情報を掲載したブログ記事など、予防医学に関する情報を発信した。また、2022年度以降のいきいきライフセミナー及び予防医学フォーラムの講演動画を一覧にまとめたページを新たに作成し、より利用しやすい形で配信した。

### (2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

#### ①講演会の開催

予防医学の知識の普及・啓発を目的として、1971年に県民等を対象に「予防医学講演会」としてスタートした活動は現在、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」「がんをよく知るための講座」の3つを定期的に行っている。今年度は、下記のテーマで開催した。

#### (ア) 予防医学フォーラム

1986年より、予防医学の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。

◇開催日 2024年11月9日(土)

◇場所 神戸新聞松方ホール

◇講演テーマ 「神戸市大腸がん検診郵送法のご案内」

説明者 当協会保健環境検査部 部長 西田 勝彦

◇講 演 テーマ 「便秘と下痢－原因を知って正しい対策を－」  
講 師 兵庫医科大学 医学部 消化器内科学講座  
主任教授 新崎 信一郎 氏

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 481名

(イ) いきいきライフセミナー

1994年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ、がんや健康等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。

◇開 催 日 2024年9月14日（土）

◇場 所 神戸新聞松方ホール

◇講 演 テーマ 「神戸市のがん検診について」  
講 師 神戸市健康局保健所保健課 課長 池田 敦子 氏

◇講 演 テーマ 「老化は克服できるか？」  
講 師 東京大学医科学研究所 癌・細胞増殖部門 癌防御シグナル分野  
教授 中西 真 氏

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 602名

(ウ) がんをよく知るための講座

1998年度より、日本人の死亡原因のトップである“がん”について、最新の治療方法等、専門家から正しく新しい知識を学ぶことをテーマに、神戸新聞社との共催で開催している。2024年度は以下の2回の講座を開催した。

(i) テーマ 「頭頸部がんとHPV」

開 催 日 2024年7月29日（月）

場 所 当協会健診センター 5階多目的室

講 師 神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 丹生 健一 氏

参加者数 53名

(ii) テーマ 「最新の肺がん外科治療～患者さん視点を踏まえて～」

開 催 日 2025年3月5日（水）

場 所 当協会健診センター 5階多目的室

講 師 神戸市立西神戸医療センター 副院長兼呼吸器外科部長 大政 貢 氏

参加者数 53名

## ②講師派遣

産業医としての指導の他、地域団体等からの要請を受け、団体が開催する講演会等へ医師を派遣した。

○講演会へ医師派遣（産業医としての指導も含む）：11回

テーマ「SMOKE FREE（禁煙）」「職場でのメンタルヘルスサポート」「健康と安全」など

## ③普及・啓発活動

がんや疾病等の早期発見や知識の普及啓発を目的に、自治体や各種団体が主催するキャンペーン事業に協力し、乳がん検診車を配車する等、広報活動を行った。

○母の日乳がん検診街頭キャンペーン：乳がん検診受診者 11名

○ピンクリボン街頭キャンペーン：乳がん検診受診者 18名

## 2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

### (1) 地域保健

#### ①特定健康診査及びがん検診

地方公共団体からの委託を受け、市民健診（国保特定健康診査・後期高齢者健診・若年者健診）を拠点会場において集団健診で実施した。休日健診実施や胃がん・乳がん検診同日実施等受診者サービスの向上を図り受診率の向上に努めた。

また、神戸市国民健康保険に加入する方を対象に、特定健康診査とがん検診の同日受診が可能な「セット健診」を、健診センター（灘区）及び健康ライフプラザ健診センター（兵庫区）で実施した。セット健診の受診者には、健診終了後原則全員を対象に、保健師、看護師、管理栄養士が、当日の身体・血圧測定、血液検査、尿検査の結果を説明し、対象者には特定保健指導及び要医療者への受診勧奨を行った。

2020年8月より開始した「石綿読影の精度に係る調査」を引き続き実施し、過去に石綿にばく露した可能性のある方に対し、健康状態の確認及び健康管理に役立てる機会を提供した。

胃がん・乳がん検診は、地域巡回により実施し、休日の検診実施を含めて受診率の向上に努めた。また、乳がん検診においては、技師をはじめとするスタッフを女性で実施する等受診しやすい環境づくりを推進した。

大腸がん検診は、近隣の地方公共団体からの委託を受け、地域巡回の市民健診会場（特定健康診査）などに検体を提出する「持込方式」と、冬期（11月～3月）限定で検体を郵送する「郵送方式」を併用して実施してきた。今後、さらに利便性を高め、受診率を向上させることを目的に、郵送方式の実施期間の制限を無くすための調査研究を進めた。その結果、2025年度からは通年実施可能とした。

また、神戸市では、インターネットを活用した受診申込を引き続き実施し、受診料の自己負担金支払方法として、電子決済を導入し、キャッシュレス化に対応している。

## ②結核検診

神戸市より委託を受け、拠点会場において集団検診で実施した。また、症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診、及び住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便を図った検診を実施した。

今後もさらに受診しやすい環境を整備する等、受診機会の確保に努め、県民・市民の結核予防に寄与していく。

## ③フレイルチェック及び認知機能検診

神戸市市民健診会場においては、国保の特定健康診査を受診される65歳及び70歳の方を対象に、加齢とともに全身の予備能力や筋力、心身の活力が低下している状態を早期発見するために「フレイルチェック」を実施した。

また、神戸モデルとして2019年1月より開始された「神戸市認知症診断助成制度」について、第一段階「認知機能検診」の実施医療機関として参画した。

## (2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受け、地区医師会の協力を得て、学校保健安全法に基づく腎臓・糖尿病検診、心臓検診、脊柱検診及び結核検診を実施した。検体検査分野をはじめとして、地方公共団体による入札制度や見積り合わせの実施により厳しい状況ではあったが、児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与するために健診・検査の質を低下させることなく、ニーズに応えた日程調整を行う等円滑な実施を目指し、きめ細やかな取り組みを行った。

また、教職員に対する定期健康診断、特定健康診査及び各種がん検診を実施し、各学校における健康管理の充実を図った。

少子化により児童・生徒数は減少傾向にあるが、今後も積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携による検診精度の維持・管理に努め、県下の児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与していく。

## (3) 産業保健

地方公共団体や一般企業の事業所等で働く人を対象に、労働安全衛生法に基づく定期健康診断、特殊健康診断及び行政指導による情報機器作業従事者健診等、職業性疾病予防と早期発見を目的として健診・検査を実施した。

地方公共団体等における入札制度や見積り合わせの実施により厳しい状況が続いているが、当協会が所有する検診車の機動力を生かした出張健診による迅速で柔軟な対応や精度等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、継続的な健康情報の提供による事業所等の労働衛生の向上及び働く人の健康づくりに貢献した。

また、がんによる死亡者数減少を目指し、ホームページや機関誌、健診会場等、様々な場面でがん検診の受診勧奨を積極的に行い、がん検診を推進した。

メンタルヘルス対策にかかるストレスチェック制度については、システム・実施体制等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先から継続して受託することができ、引き続き「こころ」と「からだ」の両面から健康の管理・増進に取り組み、働く人の健康づくりを進めていく。

#### (4) 人間ドック

県民・市民の疾病予防と健康増進を目的として、健診センターと健康ライフプラザ健診センターの2施設において人間ドックを実施した。

多様なニーズに応えられるよう、人間ドックのコースは、「半日ドック」「2時間ドック」や「一泊ドック」に加え、健診センターでは「肺ドック」、健康ライフプラザ健診センターでは「脳ドック」をそれぞれ実施した。

オプション検査としては、「胸部CT検査」「頭部MR検査」「骨量測定」「マンモグラフィ検査」「乳房超音波検査」「子宮頸がん検査」「腫瘍マーカー検査」等、希望に応じて幅広い人間ドックを実施した。胃内視鏡検査は、経口・経鼻どちらにも対応し、引き続き、実施体制の充実により予約が取りやすくなるよう努めていく。

人間ドックの役割として、健診後のフォローアップの重要性が求められている。当日結果説明と結果到着後の説明、要精密検査者への受診勧奨等をさらに充実させ、魅力ある人間ドックを提供し、県民・市民の健康増進に寄与できるよう努めていく。

#### (5) 保健指導

##### ①高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険をはじめ、全国健康保険協会並びに各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、施設及び健診会場に出張して特定保健指導を実施した。初回支援を個別指導で実施し、以後約4ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援として面接・電話・レター等で指導を実施した。2024年4月にスタートした国の第4期特定健診・特定保健指導の改訂に合わせて、アウトカムポイントを取得できる目標立案を心掛けるとともに、昨年度と同様に一部の市民健診や生活習慣病予防健診の受診当日に、腹囲測定等の結果を基に仮の対象者を選定して初回支援分割型を実施した。

また、以前から連携していた保健施設事業実施機関（東京）からは、特定保健指導（当協会は、初回支援（事後型）のみ実施し、継続支援から終了までは保健施設事業実施機関が実施する）の依頼があり、2023年度と同様に多数実施した。

##### ②労働安全衛生法に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

職域の研修会については、3団体に「適正体重を維持すること」「メンタルヘルス（セルフケア）」「目の健康」を対面の講義スタイルで実施した。

### ③メンタルヘルス事業のための保健指導

ストレスチェック制度の施行に伴い、2016年1月からストレスチェック事業をシステム化して実施している。共同実施者契約を締結している事業所については、従業員からの電話相談対応、高ストレス者には医師の面接勧奨を電話やメールで行った。加えて、ラインケア研修会とストレスチェック結果について各安全衛生委員会別や事業所全体の集計結果をわかりやすくまとめて報告研修を行った。

### ④電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種健康相談に応じ、受診結果以外の一般的な健康相談等についても可能な範囲で健康相談に応じていくことで、広く県民・市民の安心に寄与できるように努めた。

## (6) 細胞診検査

### ①子宮頸がん細胞診

神戸市指定医療機関からの神戸市子宮頸がん検診及びその他の検診、当協会の施設内健診における細胞診を実施した。中心の事業である神戸市子宮頸がん検診は年度内に21歳を迎える市民に対して無料クーポン券、そして30、50、60歳を迎える市民には受診勧奨ハガキが神戸市より送付された。受診者数については、前年度までのコロナ禍における受診機会確保のための受診期間延長措置がなくなり、やや減少したが、コロナ禍以前に近い件数となった。また、出張健診での婦人科検診を希望する企業団体で行われている子宮頸がん細胞診は前年度よりもやや増となった。

当協会の新健診基幹システム導入に伴い、施設内での子宮頸がん細胞診の結果を細胞診検査科にて直接入力することとし、検査結果の受渡が円滑になった。

### ②喀痰細胞診

神戸市指定医療機関での神戸市肺がん検診、当協会施設内及び事業所等の肺がん検診の喀痰細胞診を実施した。神戸市肺がん検診については50、60歳を迎える市民に受診勧奨ハガキが神戸市より送付され、受診率の向上が図られた。実施件数は50歳以上且つ喫煙指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）600以上が喀痰細胞診の実施対象者であるため、近年の禁煙傾向により年々減少している。

また、喀痰細胞診においても、当会の新健診基幹システム導入に伴い、施設内での喀痰細胞診の結果を細胞診検査科にて直接入力することとし、検査結果の受渡が円滑になった。

## (7) 腸内細菌検査

腸内細菌検査のスクリーニング法として遺伝子検査（マルチPCR）を導入して以降、培養法に比べ高率にサルモネラ属菌やO157（病原性大腸菌）が検出できるようになった。培養法で検出できなかった健康保菌者の抽出において、遺伝子検査の有効性は非常に高い。

また、神戸市からの感染症対策に基づいた腸内細菌（赤痢、腸チフス、パラチフス、腸管出血性大腸菌O26・O157）について、2024年度も引き続き検査を受託した。今後も検査精度の維持向上に努め、保健行政に貢献していく。

## (8) 作業環境測定

総合労働安全衛生機関として、「働く人の安全確保と健康の維持」並びに「事業者による作業環境のリスク管理の推進」を目的に健診事業と併せて、有害物質取扱い事業場を中心に屋内並びに屋外作業場あるいは居室を対象として、作業環境測定を実施した。

近年の有害物質の新たな法規制拡大や監視強化、事業者の健康意識の高まりがあり、特に昨今の産業活動に起因する健康被害や危険性・有害性の調査（リスクアセスメント）の義務付けに伴い、印刷、試験研究等に使用される有機溶剤等を対象とする測定が増えている。

今後も、特殊健康診断と一体となり、事業場の労働衛生のトータルサービス（健康管理・作業管理・作業環境管理）を提供していく。

## (9) 食品検査

食品検査には、賞味期限の設定等に用いる保存試験や食中毒予防に関連した自主衛生管理に基づく検査があり、理化学検査と細菌検査を実施した。新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行を機に、飲食業界にも活気が戻り、様々なイベント等が開催されたことに伴い、それら展示に関連する製品の賞味期限設定の依頼が多く見受けられた。

食品に由来する腸管出血性大腸菌、カンピロバクター、ノロウイルス等による食中毒予防や異物混入防止に対する消費者並びに食品等事業者の関心は常に高く、食品等事業者はより高度な衛生管理が求められており、衛生講習会をはじめ、衛生管理指導、施設衛生調査を実施した。また、2021年6月にHACCPによる衛生管理が義務化されたものの、未だ確実な運用が出来ている施設は少ないため、引き続き、導入支援および管理運用に関する適切な指導、助言を行っていく。

## (10) 簡易専用水道検査等

ビル、共同住宅、学校等の一定規模の貯水槽を有する施設における水道設備の衛生的な維持管理にかかる検査であり、県下の水道法に規定される簡易専用水道及び小規模受水槽水道の検査を実施した。

検査結果等は、設置者の了解を得た上で、行政庁に速やかに代行報告することで、衛生上問題がある施設に対する行政の指導や、検査受検率の向上に寄与するとともに、引き続き貯水槽水道の管理水準の向上や自主衛生管理を支援することにより、利用者の安全安心の確保を目指していく。

なお、2024年4月1日に水道事業の管轄が厚生労働省から国土交通省及び環境省に移管され、水質・衛生に関する業務は環境省の所管となった。

### 3. 予防医学に関する調査研究事業

#### (1) 調査・研究

各種健診・検査において得られたデータ等を基に調査研究を行い、様々な分野でそれらの成果を発表・発信した。

##### ①論文発表（総説論文、原著論文等）

○東塚伸一，他：新採便緩衝液のヘモグロビン保存安定性の検証ー通年での大腸がん検診郵送方式の可能性を求めてー。日本消化器がん検診学会雑誌。2024；62：389－398.

○山口未希，他：特定保健指導初回分割型の効果の経年比較ーリピーターに効果は出ないのかー。予防医学ジャーナル。2025；539：85－87.

##### ②学会報告等

○高橋かおる，他：健診当日の保健指導での活用を目的とした機械学習によるHbA1c値区分の予測，第67回日本糖尿病学会年次学術集会。東京。2024.5.17－19

○西村知美，他：心電図検査の結果報告における「速報」制度の取り組み，第58回全国予防医学技術研究会。京都。2025.2.20－21

○Takahashi K. et al. : Impact of Lifestyle Factors on Diabetes Risk in Non-Obese Japanese Adults with Prediabetes, 17th Scientific Meeting of Asian Association for the Study of Diabetes (AASD2025). Taipei. 2025. 3. 28-30

#### (2) 健診・検査で得られたデータの活用

##### ①事業年報の配付

健康管理、健康対策の基礎資料等として地方公共団体・保健医療機関等広く配布し情報提供した。

##### ②健診・検査データ等の活用

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活習慣、既往歴等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見等を保健指導・栄養指導に有効活用した。

#### 4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

##### (1) 健康づくり事業

###### ○健康科学セミナー

県民の健康づくりや疾病の予防・啓発を目的として、神戸新聞社との共催で疾病の予防や治療について各分野の専門家を講師に招き、2回開催した。

###### (i) テーマ 「心房細動の治療あれこれ」

開催日 2024年5月31日(金)

場所 当協会健診センター 5階多目的室

講師 神戸大学大学院医学研究科 内科学講座 循環器内科学分野  
特命教授 福沢 公二 氏

参加者数 83名

###### (ii) テーマ 「「脳卒中」を知ることから始めましょうー彼を知り己を知れば百戦殆うからずー」

開催日 2025年1月21日(火)

場所 当協会健診センター 5階多目的室

講師 神鋼記念病院 脳神経外科部長・脳卒中センター長 上野 泰 氏

参加者数 65名

##### (2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に、健康づくりプログラムを提案するとともに、保健師・管理栄養士・健康運動指導士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりを支援した。研修会場で対面形式のほか、オンライン配信形式でも実施した。

また、慢性腎臓病や糖尿病に罹患するリスクの高い方を対象として、疾病予防と生活習慣改善を目的とした健康づくり教室を開催した。医師の講話と保健師および管理栄養士による生活習慣改善支援を中心とした内容で、25回の開催に587名が参加した。

その他、健康や栄養、運動をテーマに広報誌等へ原稿を提供した。

《建物・設備機器等の更新・整備》

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行った。

- ①血液検査機器一式（リース）
- ②健診センター屋内照明LED化工事
- ③胸部デジタルX線撮影装置（車載用）
- ④胸部デジタルX線撮影装置（施設）
- ⑤眼底カメラ（2台）
- ⑥心音心電計
- ⑦全自動尿分析装置一式
- ⑧婦人科検診台（2台）
- ⑨上部消化管汎用ビデオスコープ
- ⑩検体保存用プレハブ冷蔵庫一式

《寄附金受納》

○寄附金額

30,000円（氏名は希望により非公表）

# 事業実績明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内容	受診者数(件・回)		
			2024年度	2023年度	増減比(%)
疾病予防のための健康診断及び検査事業	地域保健	特定健康診査等	50,123人	49,354人	101.6
		特定保健指導	1,560人 <sup>※1</sup>	1,788人	87.2
		胃がん検診	11,996人	13,457人	89.1
		乳がん検診	10,234人	11,474人	89.2
		子宮頸がん検診	2,786人	2,900人	96.1
		肺がん検診	9,384人	9,215人	101.8
		大腸がん検診	74,553人	77,357人	96.4
		結核検診	37,232人	37,913人	98.2
	学校保健	心臓検診	56,815人	65,589人	86.6
		脊柱検診	23,471人	23,453人	100.1
		腎臓・糖尿病検診	263,838人	336,214人	78.5
		結核検診	53,278人	61,707人	86.3
	産業保健	定期健康診断等	137,918人	138,194人	99.8
		(再掲：協会けんぽ予防健診)	(25,790人)	(25,866人)	99.7
		特殊健診	17,378人	20,841人	83.4
		ストレスチェック	15,769人	14,198人	111.1
		労災二次健診	87人	79人	110.1
		特定保健指導・保健指導	1,186人 <sup>※1</sup>	1,279人	92.7
		がん検診(巡回・施設等) <sup>※2</sup>	110,016人	114,710人	95.9
	人間ドック	人間ドック	7,833人	7,749人	101.1
		脳ドック	178人	186人	95.7
	細胞診	子宮がん細胞診	39,795件	41,644件	95.6
		喀痰細胞診	1,716件	2,015件	85.2
	生活衛生等	作業環境測定	973件	1,043件	93.3
		食品検査	2,744件	4,362件	62.9
		簡易専用水道検査等	3,587件	3,648件	98.3
	健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業	健康づくり事業(健康科学セミナー)	148人	149人	99.3
健康づくり支援事業(講師派遣・予防教室)		36回	36回	100.0	

※1：本表の特定保健指導(24年度健診結果に基づく)件数は、25年4月末現在の件数

※2：産業保健のがん検診 受診者数内訳

年度	胃がん	乳がん	子宮頸がん	肺がん	大腸がん	合計
2024年度	19,712人	13,189人	9,086人	0人	68,029人	110,016人
2023年度	22,674人	12,854人	9,396人	345人	69,441人	114,710人